

桜の木に救いの手を（終わろうとしたが終われないテーマになった）

本庄支部 吉田 豊

その後も散歩中にソメイヨシノ桜を見ると状態が弱っている。
今回は埼玉県環境科学国際センターの三輪誠博士と大阪府富田林市公園緑化協会樹木医土居常隆先生の協力で理解を深めたのでその情報も含めて伝えます。

写真で見る桜・ソメイヨシノとクビアカツヤカミキリ（以下クビアカと記す）の関係。

左写真は2023年の近所の通称・タコ公園のソメイヨシノ。隣がクビアカツヤカミキリと幼虫とフラス（糞と木屑が混ざったもの）。右写真、若し枯れればこんな寂しい風景になる。



満開のソメイヨシノ
(吉田撮影)



クビアカツヤカミキリと幼虫
幼虫の糞と木屑混合物（フラス）
埼玉県環境科学国際センター資料。



食害されたソメイヨシノとフラス
枯れればこの状態（吉田撮影）

さて、改めて桜・ソメイヨシノ（染井吉野）の特徴とクビアカの対策。

ソメイヨシノは日本で一番多く植えられている園芸品種で花が大きく、綺麗な薄い桃色、早咲きで、葉が出る前に一斉に開花するのが特徴。江戸末期から観賞用に売り出された。

「オオシマザクラとエドヒガンの間の雑種起源の園芸品種」が一般的定義、諸説もある。

今回、ソメイヨシノ（染井吉野）の特質を教えられた。

- ① クロウン植物である。
- ② 虚弱体質であり自力では育ち難い。
- ③ 従ってヤマザクラのような強い木に接ぎ木で育てられることが多い。
- ④ 寿命は60～80年。
- ⑤ DNA解析では日本で収集されたソメイヨシノは同一のパターンで皆兄弟。
- ⑥ 従って一斉に病虫害に襲われる可能性がある。
- ⑦ 同一木質の為環境により一斉の風景（開花や散る）を作る。
- ⑧ 木の幹や根元から萌芽と言う芽を出す。
- ⑨ 潜伏芽もあり幹を伐採しても萌芽として芽を出す。
- ⑩ 根付近に若い苗木を植栽しても農作物の連作障害（がんしゅ病など）の恐れもある。原因は成長に必要な微量元素の欠乏、土壤菌類の偏りが生じる。
- ⑪ 補完する方法は幹の根本に出るヒコバエを成長させる方法もある。
- ⑫ 苗木を植栽するなら相当量の土壌の入れ替えが必要。等ソメイヨシノは奥が深い。

一方、特定外来生物クビアカツヤカミキリを一網打尽特効薬（鬼平・長谷川平蔵）はない。



写真：埼玉県環境科学
国際センター資料。

幼虫は栄養や水の通り道（師管と導管）を食害する。

結果、樹は枯死する。写真はクビアカが樹内を食べた穴で生活空間。今後も研究機関、行政機関、関係諸団体の対策を注視しあらゆる日本文化のバックボーンである桜・ソメイヨシノ（染井吉野）を守る気持ちを持ち続けたい。

埼玉県環境科学国際センター三輪先生、富田林市公園緑化協会土居先生に感謝します。

今後も桜・ソメイヨシノについては追跡報告します。 以上